

☆ホームスクーラー伝道レポート☆

ホームスクーラーたちがタイや韓国、南アジアに出て行き伝道体験をしています！
感想をご紹介致します！

【市川喜也くん】

僕は、韓国に6か月、南アジアに1か月半行ってきました。まず、韓国では、紙芝居を使った伝道に参加させていただきました。僕にできるのかと、初めは心配でした。けれども、今は少し緊張しながらもしっかりと話せ、伝道できるようになりました。韓国の人も色々な反応をしながらよく聞いて下さるので、むしろやっていて楽しいです。韓国の環境にも、現地の伝道者たちやそのご家族が親しみを込めて迎えてくださったので、すぐに慣れました。

南アジアでは、大都市や地方での活動はもちろん、ある日は、観光にも何度か連れて行っていただきました。やはり、日本とは環境がかなり異なりましたが、体調を崩すことなく、毎日元気に過ごせました。またほぼ毎日、現地の伝道者たちのお話を聞くことができたのも良かったです。

この伝道旅行の前に、稲葉さんが「お客さんを迎えてもてなすことは大変なこと。だから当たり前なことだと思わないで、感謝の心を胸に刻んでいくように。」と教えて下さいました。確かに、人を迎えることは大変なことだと思います。僕も迎えてくださった方々にいろいろと面倒もかけました。それでも僕を歓迎して下さいました韓国と、南アジアの方々に感謝します。僕もこの国々で出会えた伝道者たちのように、神様のために一生を使いたいです。

『すべて、多く与えられた者は多く求められ、多く任されたものは多く要求されます。』ルカ12：48。

【喜也くんの母、市川晶子さん】

主の御名を讃えます。長男が海外訓練という恵みに預かり、感謝でいっぱいです。息子がCSSで学習サポートを受け始め、しばらくして世界の国を調べるという課題が出されるようになりました。実際に海外に行くことが

できたら、さらに良い勉強になると思います。3年ほど前にタイへ家族で行かせていただきました。その時はサムエルさんとタイの皆様に変にお世話になりました。

引き続き勉強に励んでいましたが、なぜ勉強しているのか分からなくなると漏らすときもありました。我が家は一人親で、働きながらのホームスクールでしたので、家事は子どもたちが分担してくれていましたが、2年ほど前から息子は私が楽になるようにと朝早くから頑張って家事をしておりました。その姿を見て、もう母に仕えなくていい、他の人に仕えて主の役に立てればと思っていました。こう書くととても良い子のようですが、嫌いな家事は弟に押し付けるなど、ずるい所もあります。(主に示され悔い改めたようですが。)

そのような中で今回、海外訓練の機会が与えられました。韓国では、福音の紙芝居をトレーニングしていただき、実際に田舎の家々を回って伝道できたことがとても良かったようで、何か自信をつけたようでした。南アジアの旅は主からのプレゼントと思っています。本人も行くことをとても楽しみにしていました。現地の皆様との良い交流が沢山与えられ、何より神様を熱心に愛し、神様に喜ばれることをしたいと願っている皆様を迎えてくださったので、違う環境にも慣れ、守られて元気に過ごすことができたと思っています。

日本にいる私たち家族も、また所属教会も息子とチームの皆様のために祈れることが恵みでした。現地でケアと訓練をして下さったお一人お一人に心から感謝します。また、稲葉さんと丸森の皆様、また祈りで支えてくださった多くの方々に心から感謝します。成長させてくださる神様に感謝し、主にすべての栄光がありますように。

【片岡結実さん】

韓国での伝道生活の様子を報告したいと思います。

今私は海が凄く綺麗なAという場所で伝道しています。拠点地B市から車で5時間と遠いので、2週間に1回、週末をB市で過ごし、月曜日からAに向かうという生活です。Aでは、牧師さんが開放してくださっている教会で約20人の伝道者たちと寝泊まりしています。

6時前に起床、6時から7時前まで女の子たちと一緒にバイブルタイム、7時から7時半位まで朝食 & 聖書、7時半から8時半前まで自由時間、8時半から11時半頃まで午前中の伝道で、一旦家に戻ってから昼食 & 昼寝、1時から4時頃まで午後の伝道です。私の場合、月・水・金は午前の伝道だけ出て、午後からは韓国語の勉強 & 高校の勉強をしています。言語は共通語の英語なのですが、まだまだ話したい事が英語で言えなくて、悔しいというかもどかしい気持ちがあるので、言語の勉強を頑張っています。韓国語は文法が日本語と一緒にあるので、勉強が楽しいです。

伝道は徒歩で一軒ずつ回って、紙芝居伝道をしています。時々家に入らせてくれる人がいるので、その時は中でゆっくり福音を伝えます。最初外国語の紙芝居を覚え始めた時は正直大変でしたが、覚え終わっていざ福音を伝えてみたら、大変さとか忘れて「感動」しかありませんでした。ある時「わざわざ伝道のために日本から来てくれて有難う」と言ってくれたお婆ちゃんや、最初は福音に対して反感を示したおばさんに紙芝居を伝えたら徐々に心を開いて、最後には涙を流しながら「神様のこと、信じるよ」と言ってくれたり、聖書の言葉が持つ力を実感しました。また、ある家を訪れた時、とにかく大きい猛犬2匹が家の前の細い道の両側に鎖で繋がれていました。家に向かったら案の定吠え出し、鎖が切れそうな勢いでした。ポストに入れて早く行こう！と、ビクビクしながらもポストに向かっていたら「ブチッ」と音がして、鎖がちぎれ、2匹がこっちを睨みながら向かって来た時は、一瞬脳内で「死」という言葉が浮かびました。その時一緒に歩いていた現地の女の子がリュックで格闘してくださり、私は後ろで隠れていました。そんなことがある

中、守られながら伝道が出来ていて凄く感謝だなと思いました。

まさか自分が韓国で伝道する事になるとは思っていませんでしたが、とても貴重な時間を過ごせています。また共同生活を通して、もっと祈ること、人ではなく神様を恐れること、へり下って素直になるよう、聖書を通して神様から何回も教えられました。こういう機会を与えてくれた神様と家族に感謝し、また私を受け入れ、助けてくれている伝道者に感謝しています。

【鄭宝宴さん】

私は昨年11月30日から今年の1月31日にかけてタイで宣教をしてきました。同い年の友達と一緒に飛行機に乗ってタイに着きました。着いて三日目からタイ語で紙芝居を覚え始めました。最初の一週間は発音の聞き取りでした。タイには音調が五つあると言われていて、さらに短い音や長い音も区別するので覚えるのが大変でした。

私がタイに宣教に来る前、冗談半分に“私がタイで一週間以内に泣くかも?!”と言っていたのですが本当に四日目、発音が聞き取れず、ホームシックにもなって泣いてしまいました(笑)しかし、そこで宣教しておられる方々の話や証を通して乗り越えることができました。二週間は慣れてきて韓国語でふった送り仮名を一人で読めるようになりました。

三週目、ついにサムエルさんにもOKをもらい、自分専用の紙芝居をもらいました。とても嬉しかったです。そして12月最後の週はサムエルさんたちと一緒にバンコク伝道に行くことができました。日本ではまだ聖句のプラカードを持ったことがなかったので初めて持ちました。初日は1時間半で足が疲れて座りたかったのですが最後の方では慣れて休みなしで2時間や2時間半立てるようになりました。新年にはガールズで年越しそばやおしるこを食べました。

1月3日に田舎のブリランというところへ移動しました。そして次の日から学校伝道を始めました。朝の朝礼で紙芝居を持つ係をしました。ただ立っているだけなのに冷や汗が出てとても緊張しましたが祈りながら次の学校で中学3年生の子どもたちに初めて紙芝居をしました。子供たちは純粋で中3でも私

の下手なタイ語をよく聞いてくれました。ある子は私が紙芝居を終えると笑顔で挨拶や質問をしてくれて私のタイ語が通じているんだな～と励ましにもなりました。仲間の方たちも私が無理したりしないように気遣ってくださったり、通訳をしてくださって本当に感謝でした。クリスチャンの知り合いも増え、外国で福音を伝えることができ、神様との関係も強くなったと思います。手伝ってくださった方々に感謝します。すべての栄光を神様にお捧げします。

【鄭宝宴さんの母、朴基甫さん】

我が家の長女（15歳）に昨年11月30日から2か月間タイでの伝道の道が開かれました。親としては大学に入る前に神様との信仰をもっとはつきりしてほしいとの願いと外国語に触れる機会になると考えていました。実際に2か月間充実に伝道を終え成長して来たと思います。

日本に帰ってくる一週間前でしょうか？LINEが繋がりほとんど毎日連絡をしています

たが、タイでもっと伝道したいということやまたタイへ来て1年くらい伝道したいということ、将来についていろいろ考えた話や特に神様の仕事に対しての思いなど、日本にいた時はじっくりと考えたことのない自分の道を少しずつ神様との関係から自ら考えるようになった話を聞きました。親として嬉しい思いでした。

ここで、本当に感謝したいことは丸森伝道チームの仕える心や親心で子どもたちを訓練してくださったことです。いつもチアコンベンションや白馬セミナーでなじんでおり、子どもたちに対する献身を知ってはいましたが、本当に子どもたち一人ひとりに対する献身や愛を持った養育に感動しました。

今、娘が考えている道も祈りながら神様の中で進んでいけばと思います。2月22日からは韓国で3か月間の伝道に参加します。そこでまた新しいチャレンジや成長があることを期待し、この機会を与えてくださった神様に感謝をささげます。